

九州 IoT 実装推進ワーキンググループ 第二回会合 議事概要

- 日 時 平成 29 年 1 0 月 3 1 日 (火) 13:30~17:30
- 場 所 城彩苑 多目的交流施設 (熊本市中央区二の丸 1 番 1-1 号)
- 参加者 46 団体、71 名

=====《議事内容》=====

- (1) 第一回会合概要
- (2) IoT 実装に関する企業からの発表
- (3) IoT 関連の概算要求説明および IoT 関連の動向報告
- (4) 事務局報告、質疑応答・意見交換

=====

1. 九州 IoT 実装推進ワーキンググループ概要説明

事務局より、配布資料「九州 IoT 実装推進ワーキンググループ (第一回会合概要)」とスクリーン投影画像にて説明。

2. 第二回会合

(1) IoT 実装に関する企業からの発表

下記企業より、下記説明資料に基づく発表がなされた。

①発表企業

- ・IoT サービス提供企業：KDDI、富士通、日本電気
- ・IoT サービス導入企業：九州電力

(2) IoT 関連の概算要求説明および IoT 関連の動向報告

下記より、下記説明資料に基づく発表がなされた。

①発表機関

九州総合通信局、九州農政局、九州経済産業局、九州運輸局

②発表自治体

長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、福岡市、熊本市、多久市、日南市

(3) 事務局報告 (アンケート結果分析、地域活動報告等)

事務局より、配布資料「九州 IoT 実装に関するアンケート調査分析結果」とスクリーン投影画像にて説明。また、第 1 回会合以降で、動き出した地域活動について簡単に報告。

(4) 質疑応答・意見交換

【IoT 実装に関する企業からの発表後】

(i) プラットフォーム

(座長)

富士通は鳥獣対策、NEC は斜面の崩落における災害予兆ということで、ターゲットを絞った課題解決に向けたIoTシステムであった。

KDDIは非常に多様な課題解決のサービスについてお話をいただいた。それぞれ個別な課題に対して、個別の解決を行なうことは結構大変に感じるが、プラットフォームは共通として使われているのか。

(KDDI)

IoTプラットフォームをどのように作ろうか、と念頭におきながら、まずは最初の一步として、現地の課題を吸い上げることを主眼において活動している。いずれ、プラットフォームを提供して事業としてサービス提供していきたいが、まだサービス提供を行なうフェーズになっていない。何をやれば展開性のある事業となるか、模索しながら、多数の取り組みを行なっている状況である。

(ii) コスト（初期投資）

(長崎総合科学大学 横山名誉教授（九州地域情報化研究部会長）

たとえば鳥獣、漁業、農業などへのIoTの活用は、個人事業者がIoTを整備することになるが、実証段階では事業者からの評判は良いが、これを導入することになると、コストの問題で中々、実装に至らないケースが出てくる。実証試験を行ないながら、実際に導入される現地の方はコストの問題をどのように感じているのか。また、システム提供側はどのように考えているのか。

(KDDI)

IoTシステムを導入することで、今まで掛けてきた運用費用を削減できるので、ランニング費用を捻出できる。あるいは何らかの収益が上がるので、継続的に使って貰えるといったことが挙げられる。

具体的な話で言うと、たとえば漁業については、IoTを導入することでどのくらい魚が捕れるのかが予め予測でき、その予測にあわせて動くことでコスト削減効果があるということを現地の方に説明し納得して貰うことで、初めて実証から実装に移行する、と思っている。

自治体の方へお願いしたいことが、農業や漁師の方が、いきなり導入するには初期投資の面で負担が大きいので、初期投資の一時金の補助等が受けられると有り難い。

(座長)

富士通の鳥獣対策の取り組みで15%の被害が減ったと報告があったが、導入された側が、システムの有効性について、コスト見合い、使いやすさ、初期投資といったこと

をどのように感じられているか。

(富士通)

今回は総務省の実証事業を活用したという形であったため、お客さま負担はあまり無かった。これから実装になると、ユーザーや自治体がこのコストをどう負担するかが課題である。

ただ、実際のところ、現場の方が100%負担するのは難しいと思われるので、提供する側はコスト削減しなければ広がらないと感じている。このコスト削減するためには量産してコストダウンを図っていかねばならないが、その見合いが価格設定も含めて、苦慮しているところ。ある程度、標準化されて、導入も増えていけば、使っている基盤が標準化されてくるので、少しでも安くサービス提供できると思う。

実態としては初期投資については何らかの補助を受けられると有り難い。

(座長)

NEC の斜面の崩落に関して、従来であれば大規模な予算を使って、大規模なシステムで予兆していたところにIoTを使うことで、システム費用を減少して有効であるという戦略を持っているのか。

(NEC)

センサーを含めた1式あたりのユニットの価格は従来から1/2程度である。崖崩れが発生するような危険地域は、全国で数万箇所あり、各地方公共団体でも数百箇所程度は指定されている。センサーを部分的に設置されても駄目なので、導入にはコスト削減しなければいけない。

初期投資分のコストダウンと、LPWA による長距離かつデータ量を圧縮して伝送することで通信コストも削減できる、その2点で展開していく考えである。

(5) 座長からの講評

① IoT 実装に関する企業からの発表

(i) IoT サービス提供企業

KDDI は、現地の方の色々なニーズに応じて対応している内容であった。

富士通は、鳥獣被害対策にフォーカスして、ビジネス的にもどれ位の被害額であるかを示して色々な課題に対して素早く対応するスピード感が必要だと。また、市場から受け入れられる価格も今後必要とのことであった。

日本電気は、土砂災害の予兆ソリューションは、膨大なセンサーが使われるので、管理、維持、品質をどのように行なうのか気になるところであった。

(ii) IoT サービス導入企業

九州電力は、電力安定供給のための様々な取り組みの説明であった。また、電力安定供給のためだけでなく色々な分野に活用するという話であった。

② IoT関連の概算要求説明およびIoT関連の動向報告

一般的にIoTを含めたICTの利活用について、力強い施策を検討されている、と改めて感じ、また、大変うれしく思った。

(i) 各省庁

九州総合通信局からは地域IoT総合支援というパッケージ化された内容を提示いただいた。

九州農政局は、九州では、農林水産業は非常に重要で、平均年齢が高いという事実を基にやるべきことをみていく、と良い方向に進む気がする、と感じた。

九州経済産業局では、非常に膨大な施策をご提示いただいた。IoTを推進するための新産業モデルを皆がうまく活用すると花が開く、と感じた。

九州運輸局はETCの説明は面白かったし、観光関係ではパラリンピックに向けたユニバーサルツアーなど九州は非常に力をいれている、と感じた。

(ii) 自治体

自治体については一般的にIoT推進ラボのような活動が活発的に行なわれていた。また、インフラの整備に精力的に行なわれている印象を受けた。

福岡市のIoTコンソーシアウムで福岡マラソン位置情報トライアル、乳幼児の寝返り検知など非常に興味深いアプリを実施されるということで、色々な企業がこの取り組みに参加すると面白いのではないかと、思った。

③全体的な講評

第4次産業革命の中でIoTを導入することで、Deep Shift Technology Tipping Points and Societal Impact（技術の転換点と社会への影響）がどのようにおきるのか。技術的変革が社会の主流を変革させる瞬間が目の前に起こっていると思うが、今回参加された自治体、企業、官がマッシュアップされることで思いがけない変革の瞬間を期待している。

このような中で大学では、「継続的適応と多様な状況下での新スキルとアプローチの習得」ができる人材の育成を行なっている。また必要な能力と「認知能力」、「システム開発能力」、「複雑な問題の解決能力」を身につけることも目標としている。また、システム開発能力には最近では「システム分析とともに判断力、決断力」が必要と言われている。

本日の説明でも色々な取組みには様々な分析をして判断をされていると思うが、決断は上長がするのではなく、実は実務者レベルで何らかの決断できる能力を必要と感じている。

本日は豊富な情報を提示されたことに大変感謝し、これを機に是非、色々な方々とんと共有して、新たな価値創造に向けてご協力いただければと思う。

以上